



森

千葉県TEACCHプログラム研究会
2016年9月25日(日) 第85号

「森」字・佐々木正美

イラスト・竹善伸六

発行：千葉県TEACCHプログラム研究会広報部

ホームページ：<http://www5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm>

事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS内

TEL:043-227-8557

「ASDの特性理解と支援」

(自閉症スペクトラム)自閉症、PDD、アスペルガー障害など

その子(人)、その個をいかして～自信と自立、自尊感情を育む～

横浜市東部地域療育センター 心理 安倍陽子 氏



今回は、千葉県TEACCHプログラム研究会のスーパーバイザー安倍先生の講義でした。先生の豊富な実践を通して、支援のポイントを整理してくださいました。自閉症支援のキーワードが満載のセミナーでした。

特性理解については、「学習スタイル」がキーワードでした。ご本人やご家族のインタビューを通して、「視覚的に考える」「中枢性統合の弱さ」「独特の注意の向け方」「実行機能の問題」「感覚刺激の偏り」「心の理論の弱さ」という6つの視点から解説していただきました。

学習スタイルについて学んだ上で、「大人のASDの方の中には、「今回はうまくいかなかったから次はこうしよう…」と自分で自分を支援できる人もいますが、出来ない人(子)も多く、それを周りが支援していきます。「こうしよう」の部分をいかに伝えていくか、個別的な配慮が必要です。」という前置きのもとにお話が始まりました。

まずは、「ASDに合ったやり方」を尊重すること。そして、将来に向けて何が必要かを考えて、適切な行動を教えていく際には、「強みをいかして、弱みを補う」ことが支援の基本になると話されました。

この「強みをいかす」という意味でも、「この子のためには、どのようなスケジュールやシステムが必要か」という個別的な視点で構造化の度合いを調節し、「一人ひとりに合った支援」が組み立てられています。

個別化のためには、常にインフォーマルなアセスメントを行い、「行動特徴」と「知的水準」の2つの側面から一人ひとりを見ていくことが大事であるとのことでした。

「行動特徴」は自閉症としての特徴で、本人の学習スタイルに合わせ、認知行動を理解して支援することが重要になっていきます。「行動特徴」と「知的水準」の2つのベクトルからご本人を把握したところで、「どのように自閉症の支援を組み立てるか」を考えることが大事であり、「刺激・情報の整理」「視覚的に伝える」などが、支援のポイントとして挙げられていました。

実際の支援に向けては、「何を教えるか(カリキュラム)」と「どのように教えるか(枠組み)」は別であることを、支援者は、理解しておく必要がありますと強調されていました。

「何を教えるか(カリキュラム)」は、幅広い領域からその子(人)の発達レベルに合わせて考えていきます。さらに、安倍先生が重要であると考えている領域として、「余暇活動」と「コーピングスキル（ストレスに対処するスキル、リラックスできることや安心できるグッズなどを知る）」を小さい時から自分で知っておくことが重要である」というお話をありました。

「どのように教えるか(枠組み)」が「構造化」のアイディアであり、いかに落ち着いて生活できるか、そのために、環境の意味理解を助ける物理的構造化が重要であるとのことでした。

スケジュールを作る上でも、「この場所で」「何をするか」の文脈を伝える必要があります。意味のある場所があるから、スケジュールで伝える意味があります。場所を設定することで、スケジュールの中の活動をする場所を自分で見つけることができ、それが自立へと繋がっていくとのことでした。

また、スケジュールとワーク(アクティビティ)システムの違いについて確認されました。スケジュールは、それを見て場所から場所へ移動して行く「活動間」であり、ワーク(アクティビティ)システムは、例えば「朝の会の中で何をどういう順番で行うのか」というような「活動内」の表し方のことです。私たち支援者は、これを知ったうえで活用ていきたいですとのお話をありました。

安倍先生のお話では、その子(人)が今できることは何か、興味関心は何に向いているか、わかるものは何か、強いものは何か、得意なことは何か、何だったら適切な行動をとれるのか…と肯定的な見方をしていくことの重要性が強調されていました。そして、先生のご経験から、「その子(人)をポジティブに見ていくために、私たち支援者が、柔軟であり、創意・工夫力が大切です。」という思いのこもったメッセージが受講者全員に伝えられました。

North Carolina TEACCH プログラム

市川市こども発達センター
あおぞらキッズ
岡田由美子

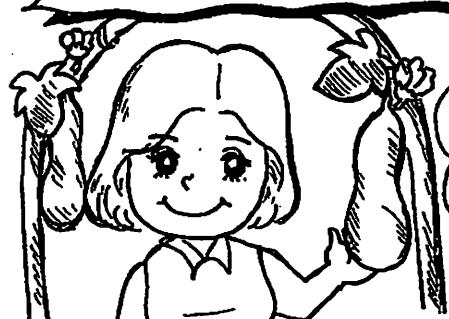
8/4(木)
～8/13(土)



学習室 研修…に行きました！

- 研修内容
- PEPⅢとTTAPの解説とデモンストレーション
- アルバマールGHA Autism Supports 現場視察
- カロライナ生活学習センター CLLC を訪問
- T-STEPと青年期の就労移行プログラム
- 不安の解消と自閉症スペクトラム障害
- 障害のある方を支える社会保険制度
- 自閉症スペクトラム障害におけるICTの活用
- 地域内の就労支援企業を現場見学

TEACCH発祥の地、
憧れのNorth Carolina…
いつか自分の目で見てみたい！
何年もの間思っていました。
今年は職場の休みと旅行の
日程が重なり、職場の仲間と
3人で参加する事が出来ました。
ほんの一部ですが皆さまに
ご報告させていただきます。



GHA
ドーン・アレンさん
(GHA自閉症サポートディレクター)
(Autism SUPPORTS)

18人住んで
12人通いで
計30人のASD
の方が働いてる

カロライナ農場

- 仕事の内容
- 養鶏（採卵）
- 農作物を育て収穫する
- 箱詰め

- ヘチマを育て干す。（身体を洗う用）
- お菓子作り
- クラフトワーク（ガラス）

構造化された作業場

①グリーンハウス

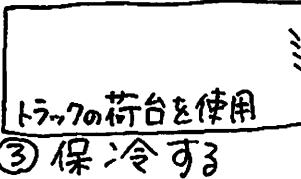


- ①土を分ける
 - ②まぜ合わせる
 - ③ブロックに入れる
 - ④水やり
- *かけ過ぎない様に霧吹き使用。(タイマー5分で)
*滑らないような凸凹の足型で立ち位置示す。

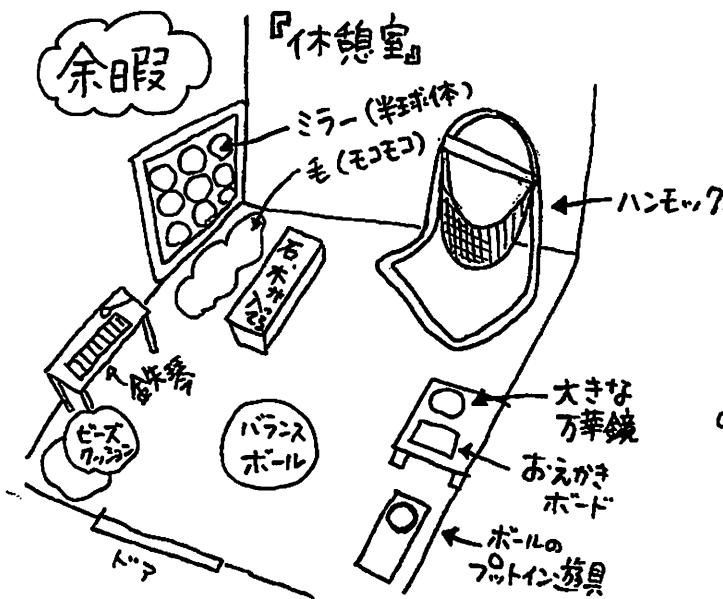
水をかけすぎ
ないようにする
ため、ルーペかで書く
あるカードもあり
ました!!



- ①洗う
- ②のせる
- ③保冷する



ここも手順が
わかりやすくない時は



外には
大きなブランコ!! (2台ありました)

- その他近くのプールを作っている工場からの寄附でプールもありました。

センサー
ガーデン



石かご大好きな人がいるそうです。
(この中で落ち着く)

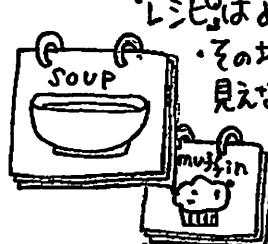
CLLC (Carolina Living and Learning Center)

- ASDの方達が住んで働かき、学ぶ施設です。
- 居住施設は2棟あります。5人 10人 スタッフは24h!! ついています。

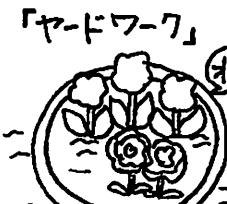
視覚支援



食具の置き方が
一目でわかるランチョンマット。



「レシピはめくり式」
その場面しか
見えないので
わざりやすい。



「ヤードワーク」



どこに水を撒く?
どこ草を抜くのか?
抜いたら入れる
フラフープを使って示します。

「はじめとおり」
Cookingでは
身につけることで
「はじめ」それを外すことで「おり」を意識します。

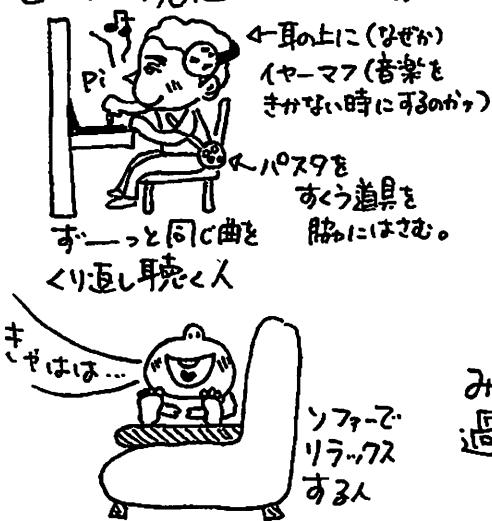
居住者

GHAの援助付アパートでは、
好きな物に囲まれ、好きな事が
出来るようになっていました。



青が好き。
音楽が好き
芸者が好き
マイクのヘヤは
青いカベで囲まれて
いました。

CLLCの居住スペースには...



みんなそれぞれの余暇の
過ごし方をされていました。

視察研修に参加して

私は幼児の通園施設で働いていますが、大人の施設であるDHA、CLLAの見学が出来た事はとても参考になりました。働いている方、アパートに住んでいる方、施設に居住している方、皆さんが自信に満ちて幸せそうでした。強みを活かし自分の出来る事で生活する事で自己肯定感が育まれているからだと思いました。そのためのきめ細かいサポートがしっかりした理念の基になされていることを何度も感じました。

ご講演いただいたノースカロライナ GHA 自閉症サポートのドーン・アレンさんと千葉T研スーパー・ヴァイザーの安倍先生と一緒に撮りました。



そして、去年、今年と安倍先生の『ASDの特性理解と支援』の中で学んだ「強みを活かす」「余暇の大切さ」「見てわかる」「子に合わせた支援」…数々の教わった事が次々と繋がっていきました。

改めてティーチは愛と優しさに溢れている事、知ることが出来たことに感謝でいっぱいになりました。この経験を子ども達や、ご家族の皆さんに還元出来るように日々の療育に精進していきたいと思います。最後に振り返りの機会を与えてくださりありがとうございました。

本誌に掲載したのは上記のうち、「アルバマール GHA Autism Supports 現場視察」です。

本誌のもととなったカラー版の冊子を第3回連続セミナー時に、書籍コーナーにて展示しておりますので、ぜひご覧ください。

あおぞらキッズ 岡田 由美子

平成28年度 TEACCHプログラム研究会 第4回連続セミナーのお知らせ

日時：10月29日（土） 13:30-16:30（13:00 受付開始）

内容：「親心と子どもの世界～絵本『学校コワイ』に込めた想い～」

講師：よつば もこ 氏（保護者、「学校コワイ」著者）

会場：教育会館会議室203

《絵本「学校コワイ」の紹介》 「先生からの説明がないために、ごくフツウの事をわからないまま、毎日をびくびくしながら過ごさなくてはならない…学校はとてもコワイ場所…。そんなLD(学習障害)とASD(自閉症スペクトラム)を持つよつば もこ氏のお子さんの困り感、そして、次第に学校への恐怖が募っていく様子がこの本に、簡潔にかつ具体的に表現されています。私たちが当事者のことを理解するために、そして当事者が自分のことを他者に伝えるためにとても有効な本であると思います。大阪市教育委員会の『はーと&はーと』絵本原作コンクールで奨励賞受賞作品です。

《編集後記》 リオ・オリンピック、パラリンピック共に閉会しました。メダル獲得を目指し全力で戦っている姿は、私たちに勇気と感動を与えてくれました。自分と向き合い何年も練習を積んできたであろうその努力に、ただただ敬服するばかりです。ひたむきなその姿は障害があっても変わらないものですね。もちろん競技の取組み方等には違いがあり、それぞれに困難なことがあるかと思います。違うことの一つは、その選手の力が発揮できる環境の作り方であり、それは、私たちが日常行っている教育や支援に通じていると感じます。本日の菅谷先生の講話の中にも、子どもたち一人ひとりの理解・指導・支援につながるヒントがたくさんあったのではないかでしょうか。子どもたちの自己実現につながるように、私たちは謙虚に学び、学んだことを生かしていきたいですね。（金坂）